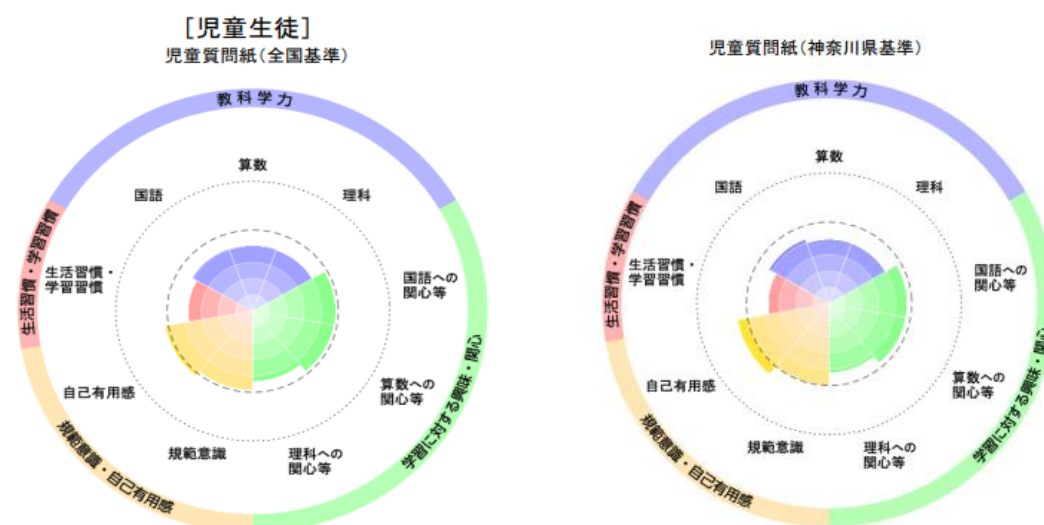


## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

例年実施されている小学校6年生および中学校3年生を対象に行われる全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。調査は「国語」「算数」「児童アンケート」の3つで、それぞれの結果を全国および県の平均と比較する形で報告します。



### 国語

学習指導要領で示されている「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の4観点について、平均正答率を県及び全国の平均値と比較した。

全体の平均正答率は全国の65.6%に対し、57%と差が見られた。上記の観点別にみると、「書くこと」については、平均値であった。しかし、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、それぞれの観点においても県および全国の平均との差が見られた。

児童アンケートでは、93.2%を超える児童が「国語の勉強は大切である」と答えていることから、国語への興味関心の高さを生かして授業改善をしていくとともに、「自分の考えを伝えることのできる子」の育成を目指している校内研究においても検討を進めていく必要がある。

また、文章中に出てくる「ろくが」「はんせい」「したしむ」といった平仮名を、漢字を使って書き直す問題において誤った字を書くことや無回答があった。

- ・「話すこと・聞くこと」については、必要なことを質問する機会を設定し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられるようにする。また、話し合いの経験を重ね、友達と考えを伝え合うことで、自分の考えをまとめられるようにする。文学的な文章についての指導は、今後も継続していく。
- ・漢字学習については、チュンチュン漢字チャレンジテストや週に一度の漢字テストを実施している。しかし、単語のみを覚える学習が基本となり、漢字の意味や文の中で活用することについてはできていない。今後、漢字学習のやり方やテストの形式を検討することで、文の中で漢字を正しく使えるようにしていく。

# 算数

学習指導要領で示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5観点について、平均正答率を県及び全国の平均値と比較した。

全国の平均正答率は63.2%に対して、55%と差が見られた。

平均と比べて顕著な差が見られた問題として、「数と計算」においては、示された場面を解釈してわり算で答えを求める問題が全国の正答率が76.0%に対して、小雀小は62.2%と低い結果となった。また、「図形」においては、正三角形やひし形などの図形を構成する要素に着目して、答えを求める問題では全国の正答率と比べて10%程度の差が見られた。

児童アンケートでは「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている」と答えた児童が約80%いることから、算数の学習に対して、粘り強く取り組もうとする姿勢があることが考えられる。

- ・「数と計算」では、文章から場面を解釈して答えを求められるように、授業の中で視覚的に問われていることがわかるように授業改善を図るようにする。また、「図形」では、これまでに学んだ図形を構成する要素について振り返り、それらを活用して答えを求められるようにしていく。
- ・児童アンケートの結果を、前向きに捉え、今後も粘り強く取り組もうとする姿勢を身に付けられるようにしていく。そのためには、今後も授業の中で友達と一緒に考える時間を設定し、友達と学ぶことの楽しさを実感できるようにしていく。

## 児童アンケートより

「自分にはよいところがある」と答えた児童は82.4%、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童は87.9%。さらに、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と答えた児童は77%と全国平均を上回っている。本校の児童の多くが目標をもち、学校生活に対して前向きな姿勢をもっていることがわかった。

これらの結果は、本校で取り組んでいる「めあてや振り返り」を大切にされた指導の在り方が大きく影響していると考えられる。今後としては、自分が決めたことを最後までやり遂げられるようにするために、目標達成に向けた見通しをもった取り組み方を一人ひとりが考えられるようにしていく。